



## 外国出張報告書

平成 26 年 3 月 16 日

1. 出張国名 中国
2. 出張月 平成 25 年 11 月
3. 出張目的 圃場の残存窒素測定と圃場実験結果の解析

#### 4. 成果の概要

草原研究所の模範基地でカボチャを対象として、収益を減らさずに牛糞施肥量、灌水量を減らす目的で研究を開始した。昨年の実験結果から、疎植栽培では、灌水量の増加に伴い水利用効率が高まり、牛糞施肥量の増加に伴い施肥効率が高まることを明らかにした。昨年の実験では土壌中の窒素が少ないとみられたので、硫酸アンモニウムで窒素 100ppm 養液を灌水として供給した。今年の実験では、全て疎植栽培にした。通常 6 月末から始まる雨期までを灌水期間とし、硫酸アンモニウムで窒素 150ppm 養液を供給する処理と、水を供給する処理を設けた。今年、残肥の効果が期待できるので、4 段階の昨年の牛糞施肥量を継続供給した。生育、収量に関する調査を中国の研究者に依頼した。本出張では、現地での生育状況等を中国人研究者と確認しながら、結果をとりまとめた。